

第3次八王子市環境基本計画～八王子市生物多様性地域戦略～ (素案)説明資料

(1) 改定の趣旨

本市では、2001年（平成13年）を環境元年と位置付け、「八王子市環境基本条例」を制定しました。この条例に基づき、平成16年（2004年）3月に「八王子市環境基本計画（「第1次環境基本計画」）」、平成26年（2014年）3月に「第2次環境基本計画」を策定し、環境に関する様々な施策を推進してきました。

近年、地球温暖化の進行による地球環境への影響が顕著化し、本市においても、令和4年（2022年）2月にゼロカーボンシティ宣言を行い、市民・事業者・行政の「オール八王子」でカーボンニュートラルの実現に向けて全力で取り組んでいます。

また、気候変動による影響は、生きものの絶滅や生息・生育地の減少、消失などを引き起こし、生物多様性の損失や生態系サービスの低下につながります。

本市は、高尾山をはじめとする豊かな自然が身近な存在となっており、これらの自然を保全・活用しつづけるにあたり、生物多様性に関する課題に対処する重要性も高まっています。

本改定は、八王子の地域特性と現状を踏まえ、市民・事業者の自発的な環境保全活動と市の環境施策とを総合的かつ計画的に推進することにより、八王子の望ましい環境像の実現を目指すものです。

(2) 計画の位置付け

本計画は、環境基本法第36条及び八王子市環境基本条例第6条、生物多様性基本法第13条の規定に基づき策定するもので、八王子未来デザイン2040を環境面から具現化する環境分野の最上位の計画です。

市民・事業者の自発的な環境保全活動と市の環境施策とを総合的かつ計画的に推進することにより、八王子の望ましい環境像の実現を目指します。

また、今回の改定で生物多様性基本法に基づく生物多様性地域戦略と一体で策定することで、八王子市の生物多様地域戦略として位置付けます。

(3) 基本理念及び望ましい環境像

〈基本理念〉

一人ひとりが環境について考え、その保全、回復及び創造に積極的に取り組み、環境負荷の少ない、人と自然とが共生できる社会をつくる

(4) 改定の方向性

- ・「環境基本計画」と「生物多様性地域戦略」を一体的に策定
- ・これからの環境行政の課題に対応する方針や施策を設定
- ・八王子未来デザイン2040を踏まえた成果指標の見直し
- ・生物多様性の観点から地域の自然環境の積極的な活用について盛り込む
- ・自然、歴史文化の観点から八王子らしさを盛り込む

(5) 体系・構成

望ましい環境像	基本目標	基本施策	施策の方針
未来へつづく水とみどりにあふれた健康で心やすらぐまち	I 自然と共生できる持続可能なまちの実現 II 心地よく豊かに暮らせるまちの実現 III 地球環境に寄り添ったライフスタイルの実現	自然と共生したまちの実現【自然環境】	1-1 生きものや生態系に関する情報の収集・活用 1-2 多様な生きものと暮らせる環境づくり 1-3 生きものとの適切な関係の構築
		ゼロカーボンシティの実現【温暖化対策】	2-1 エネルギーの有効活用による環境負荷の低減 2-2 気候変動対策の推進
		地球にやさしい循環型社会の実現【資源循環】	3-1 サーキュラーエコノミーに向けた取組の推進 3-2 地域資源の循環促進
		快適でしなやかさを持ったまちの実現【都市・生活環境】	4-1 自然の恵みを活かしたまちづくり 4-2 美しく快適なまちの保持 4-3 公害のない生活環境の実現
		環境を考え行動する暮らしの実現【行動変容】	5-1 環境について知る機会の創出 5-2 環境に配慮した暮らしの実現

横断的視点として「気候変動の抑制」・「生物多様性の保全」を設定

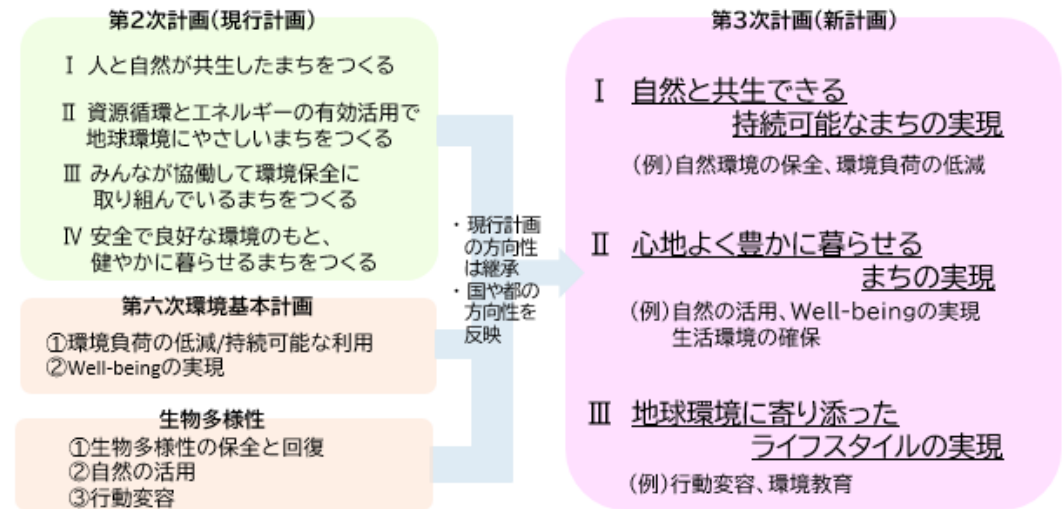
〈望ましい環境像〉

未来へつづく、水とみどりにあふれた健康で心やすらぐまち

(6) 現行計画との比較（基本目標）

<変更の視点>

- ① 第六次環境基本計画（環境省）の反映 ② 生物多様性戦略の方向性の反映



(7) 施策の方針及び成果指標

施策の方針	成果指標	現状値	目標値 (2033年)
生きものや生態系に関する情報の収集・活用	モニタリング調査の実施地点数 (新規)	19地点(2022年)	25地点
多様な生きものと暮らせる環境づくり	保全の対象としたみどりの面積 (新規・未来デザイン)	1088.5ha(2022年)	1,150.0ha
	認定農業者数 (新規・未来デザイン)	112営業者(2022年)	現状維持
生きものとの適切な関係の構築	地域ぐるみ獣害対策の実施数 (新規・未来デザイン)	7回/年	11回/年
エネルギーの有効活用による環境負荷の低減	温室効果ガス削減割合(2013年度比) (新規・未来デザイン)	14.2%削減(2020年度値)	46%以上削減
	市内に設置された太陽光発電設備の発電容量 (継続・未来デザイン)	61MW(2022年度)	193MW
気候変動対策の推進	雨水貯留浸透量整備率 (継続・未来デザイン)	44.9%(2022年)	60%以上
サーキュラーエコノミーに向けた取組の推進	1人1日あたりのごみ総排出量 (継続・未来デザイン)	727g/人・日(2022年)	710g/人・日
	食品ロス焼却量 (新規・ごみ処理基本計画)	13,875t(2022年)	10,000t以下
地域資源の循環促進	給食への八王子産野菜の使用率 (新規・未来デザイン)	34%(2022年)	現状維持
自然の恵みを活かしたまちづくり	自然とふれあう機会がある市民の割合 (新規・未来デザイン)	68.20%	78.00%
	雨水貯留浸透量整備率(再掲) (継続・未来デザイン)	44.9%(2022年)	60%以上
美しく快適なまちの保持	まちの美観が保持されていると思う市民の割合(継続)	55.5%(2023年)	65.00%
公害のない生活環境の実現	光化学オキシダント濃度 (年間4番目に高い日最高8時間値の3年移動平均)(新規)	0.084ppm (2020-2022年)	0.07ppm以下 (2031-2033年)
	河川のBOD環境基準達成率 (継続)	達成率100%(2022年)	達成率100%維持
環境について知る機会の創出	環境に関する講座・講演への参加者数 (継続)	32,194人/年 (2022年)	35,000人/年
	生物多様性の認知度 (継続)	39.9%(2023年)	55%
環境に配慮した暮らしの実現	生物多様性や豊かな生活環境の保全のために行動した市民の割合 (新規・未来デザイン)	79.4%(2022年)	90%
	市民一人当たりの二酸化炭素排出量 (新規・温暖化計画)	3,480kg-CO ₂	2,340kg-CO ₂ 未滿